

# 豊田 長康

学長メッセージ

## 三重大学が大切にしている4つの力

“感じる力” “考える力”  
“生きる力” とその基盤となる  
“コミュニケーション力”

# NAGAYASU TOYODA

### 『いつつの支えあうかたち』

写真のモニュメントは、三翠ホールの東側に位置します。これは三重大学の5学部が、互いに支えあっている姿をシンボライズしたものです。

### どんな大学ですか？

三重大学は、地域圏大学と表現できると考えています。三重県唯一の総合国立大学であり、教育・研究活動として地域に貢献してきました。私たちのミッションとして、“地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す～人と自然の調和・共生の中で～”を掲げています。

研究活動としては、地域圏にある大学として、例えば燃料電池やがんワクチンなどの世界レベルの研究とともに、英虞湾の浄化、地域の災害対策、尾鷲の深層水、熊野古道関連の地位文化の研究など、特色ある地域に根ざした研究を意欲的に行ってきました。研究の中には、企業との共同研究も含まれます。三重大学では、大企業はもちろん、県内の多くの中小企業とも共同研究を行っています。近年、産官学連携が進み、企業との共同研究数は上昇。平成17年度の共同研究数は全国で14番目でした。これは私立大学も含めた順位ですから、地方大学としては非常に健闘している順位であると言えます。

また、例えば「みえメディカルバレー構想」は、産学官の連携を核に、成長が期待される医療や健康、福祉産業の創出と集積に向けた取り組みです。バイオ専門誌を発行している日経BPバイオセンター編集部が実施している、全国バイオクラスターのランキングにおいて、この取り組みが2004年は5位、2005年は6位、2006年は4位となりました。地方で行っている取り組みとしては、非常に高い評価を受けています。

教育目標としては、“感じる力” “考える力” “生きる力” “コミュニケーション力”の涵養を掲げています。その目標を達成するために、教育改革を積極的に推し進めており、「全学的な知的財産創出プログラムの展開」をはじめとして、この3年間で文部科学省の教育改革支援事業に7つの教育プロジェクトが採択されました。この採択数は、地方にある大学としては教育にかなりの力をいれていることを示す数だと思います。また、これとは別に「e-learningシステムを駆使したPBL教育の全学的展開」は、文部科学省の特別教育研究経費対象の教育改革事業に採択されており、三重大学の教育改革の特徴を象徴するプロジェクトとなっています。なおPBLとはproblem-based learning、project-based learningの略です。

### どんな教育を受けられますか？

PBL教育では、与えられた課題やプロジェクトに対して、学生さんが少人数のチームで意見を出し合いながら、自ら問題点を見出し、自己学習し、解決をしていきます。いくつかの学部では、以前からこのような教育を導入してきましたが、三重大学では、“モデル”というe-learningシステムを整備し、それを活用したPBL教育を、共通教育として全学的に推し進めています。

また、国際的に通用する人材の育成を目指して、教育の国際化も進めています。そのひとつが、アジアを中心とした大学間協定の締結です。これまでに多くの大学協定を結んできましたが、2007年9月から天津師範大学とダブル・ディグリープログラムを実施し、2つの学位を取得できます。具体的には、天津師範大学の学生が日本語コースで2年間学んだ後、三重大学教育学部で学び、卒業します。大学院レベルでは、このような制度がありましたが、学部レベルとしては、おそらく国立大学で初めてです。将来的には、三重大学の学生が天津でも学位を取得できるようにしたいと思います。そして、こういった制度を大学全体にも広げたいと思います。

### どんな力が求められますか？

現在、農業・工業革命に次いで知識情報革命が起こっていると言えます。情報が氾濫し、グローバルな知識が誰でもどこでも手に入りやすい社会で通用する人材の育成が課題です。インターネットで早く、安く情報が得られるので、それ以上の知識やサービスを提供しなければ、評価されません。私の専門は医学ですが、受診前に症状や治療法などについて、医師が驚くほどくわしく調べてこられる患者様も少なくありません。このように、知識の相対的価値は低下しており、知識を持っているだけでは評価されない時代になりつつあります。専門的な知識や技術に加えて、人間関係や人間力といった、他者から共感される力が必要なのだと思います。

専門家という言葉ひとつにしても、プロフェッショナル、エキスパート、スペシャリストと表現されていますが、学生の皆さんには“プロフェッショナル”になってもらいたと思います。プロフェッショナルとは、狭い専門的な知識や技術では対応できないような環境の変化が起こっても、それに対応できる人だと思います。自分の狭い専門性の殻を破り、新しいことを生み出す力を持ってください。そのためには、しっかりと基礎学力とともに、常に自己を高めていく力が不可欠です。

そのためには、単に講義で知識を得るだけでは不十分であると考えており、三重大学が教育目標として掲げている“感じる力” “考える力” “生きる力” “コミュニケーション力”の4つの力を身につけていただく必要があると思っています。この4つの力は皆さんがプロフェッショナルになっていただくために必要な力であると考えます。

### どんな学生になってもらいたいですか？

皆さんにはプロフェッショナルとして競争社会で生き残って欲しいと同時に、公共心も育んでもらいたと思います。公共心とは、時に資本主義社会を動かすほどの力を持ちます。例えば、インターネットにおけるウィキペディア。多くの人の公共心が、専門家が作った百科辞典と同等のものを作り上げています。競争社会に生き残るプロとしての能力と同時に、公共心をもって初めて、真のプロフェッショナルと呼ばれる人材になれると思っています。

三重大学では環境ISO取得に向けた取り組みも活発で、2007年中の認証取得を目指しています。環境教育の一環として学生のみなさんにも活動してもらっていますが、必ずしも大学が強制しているわけではなく、基本的には自主的に参加しています。学生が中心となって活動しているのは、珍しいことだと思います。その結果、「三重大学環境報告書2006」が、「第10回環境コミュニケーション大賞」の優秀賞を受賞しました。学生が中心となって環境マネジメントシステムを構築し、実践した結果です。この環境マインドの育成は、PBL教育と同じ意義を持っています。

三重大学の教育目標である“感じる力” “考える力” “生きる力” “コミュニケーション力”は、このように学生さんが主体的に公共心をもって実践的に行動することによって、いっそう身に付くものと思っています。皆さんには、ぜひ“真のプロフェッショナル”となることを目指して頑張っていたいだきたく思います。三重大学はそのような学生さんのお手伝いをさせていただきます。